



## 名古屋・ランス姉妹都市提携記念展の旅

名古屋市とフランスの世界遺産の街ランスが2017年に姉妹提携し、その記念式典が2018年5月に開かれました。同時に開催された姉妹都市提携記念展に参加するため、2018年5月4日～5月11日の日程で行って参りました。記念展には名古屋近郊の作家20名が参加しました。

ランスはフランス北部のシャンパーニュ地方の主要都市です。「ヴーヴ・クリコ」・「G.H. マム」・「ポメリー」などシャンパンの産地として世界的に有名でもあります。また、三大ゴシック建築の一つで世界遺産でもあるノートルダム大聖堂や1913年にパリに渡った画家「藤田嗣治」が晩年の1965年、シャンパンメゾン「G.H. マム」敷地内に作ったフジタ礼拝堂も大変有名です。

### 姉妹都市提携記念公式行事(調印式)参加

5月5日、午前11時からランス支庁舎において調印式が行われました。記念展出品作家全員の席が用意されており、間近でランス市長と河村名古屋市長の式辞をランス市民と共に聞くことができ、歴史ある市庁舎での厳かな式典に感動致しました。河村市長は式辞の最後にご自慢の歌プレスリーの曲を英語で「I love ランス～」と歌い上げ会場を盛り上げ、大喝采でした。その後は、シャンパン豊富なビュッフェ形式の賑やかなパーティーとなりました。



ランス市庁舎式典会場



会場内



河村市長と



パフォーマンス

## 姉妹都市提携記念展

いよいよ午後からは、ランス市長、河村市長を交えて展示会場でオープニングセレモニー、テープカット、書やダンスのパフォーマンスがありました。展示会場はランスのシンボル「ノートルダム大聖堂」前にある文化施設「Le Tresor」シックでお洒落なギャラリーです。

今回の展示会は版画・水彩・書・立体等が主に出品されました。日本から各自直接作品を持っていきまされたから、私も人形をパーツに分け、会場で組み立ててセッティングしました。立体を海外に持って行くのは、大きさの制限もありなかなか難しいので、いつも私はすべて解体して、トランクに詰めて持って行きます。今回は特に日本を意識して、作品の下には、昭和初期の帯を敷き、人形の塗装にカシューを施しました。最近の作品では、新聞紙の顔の部分を持ち抜いたものを貼り付けて表面を作っていますので、人の顔が人形のあらゆる面で見られます。大勢の方が会場に来られましたが、比較的若い人が多く、日本が珍しいようでJapanese Artに興味を持って見て頂けたのは、大変喜ばしいことです。

記念展の他にもう一つの目的が、パリのポンピドー広場でのパフォーマンスです。人形を使った初めてのパフォーマンスは、ニューヨークです。赤い着物に緑のウィッグを付け人形を持って地下鉄に乗り、歩くという行為でした。そのいで立ちでニューヨークハロウィンにも参加しました。今回は作家メンバーが積極的に参加してくれることになりましたので、テーマを「縁—Le Lien」と決め、シナリオを作り人形を使った10分程の動き(身体表現)を作ってパフォーマンスしました。人形を作り始めたのは、19歳からです。ずっと作り続けていたからこそ、今があり、出会いがり喜びがありました。そのような思いを込めて「縁」というテーマでパフォーマンス作品を作りました。赤い着物は魔除けの意味を持ち、可愛い、怖い、色々な表情をみせる人形。赤い着物をまとい、仮面をつけ、人形の頭を持っての身体表現は原始の頃からの自然の営みに近いのかもしれませんが。現在に至るまで人形を作ってきたから、CDAと素敵なメンバーに出会い、そして名古屋から海外にまで繋がった「縁」をつくづく感じます。アートでもデザインでも何かで繋がれた縁で、世の中が平和で人々が安心して幸せな生活が送れるようになってほしいと祈る今日この頃です。



ポンピドー広場でパフォーマンス



展示作品